

「本当の工事の人みたい!」



大きな防水ライナーを広げて、かぶせる作業を開始すると、「ほんとうの工事の人みたい!」と子どもたちは大喜び。大掛かりな工事さながらの活動に心躍らせていました。その後は用意した木枠を子どもたちと運びました。池の形や大きさを子どもなりに考え、「びわこの形にしよう」という声から、琵琶湖×ビオトープ=びわトープという名前が生まれました。木枠が動かないようにどうすればいいか、子どもが考えたのは石を詰めることでした。それでも動くところは「セメントでフタをする!」と、練った泥を塗りこむ子どももいて、「本当の工事の人みたいやな!」と教師がいうと、とても満足気な表情をしていました。